和光会会報No. 41

ー菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社ＯＢ会ー

◆「第13回総会」開催のお知らせ

和光会総会を次の日程で開催することに致しましたので皆様のご出席をお待ちしております。

- 日時：平成27年6月13日（土）15：00～17：30
- 場所：東京都荒川区荒川7-19-1　システムプラザＢ館　８Ｆ　大会議室
- 会費：5,000円

今回も前回同様イベントとして和光会会員の日頃の活動状況を紹介するため、趣味の作品の展示コーナーを設けることにいたしました。パッチワーク、版画、写真、絵画、書道、墨絵、彫刻、陶芸、著書、論文、雑誌への掲載記事などご紹介したいと思います。この機会に、是非仲間へ作品の披露をお願い致します。

展示される方は、作品を当日持参され、総会開始前の13:30～14:00に所定の場所に展示し、総会終了後お持ち帰り願います。

なお、展示スペース準備のため総会案内の「返信はがき」に下記の事項をご記入願います。

１．作品のジャンル（例えば、書道、写真、油絵など）
２．サイズ　［縦　　×横　　×高　　］（展示スペースはお一人当たり180×60cm机1つ分以内）
３．展示に関し事務局への要望

また、展示に関して不明な点は下記事務局にお問い合わせお願いいたします。

和光会事務局　丸本 慎也
ＴＥＬ：03-3802-9794
メールアドレス：marumotoｓ@mtb.ssg.meltec.co.jp

今回は久しぶりに「M’ｓ station ・MIC見学会」を開催いたします。ご希望される方は総会当日
１３：３０までにご集合ください。

今回更に支社OBとの交流を図るべく、支社OB 会にも和光会総会・懇親会を紹介し、支社OBのメンバーも参加できるようにいたします。

前回同様、総会の詳細と出欠・展示作品の有無・「M’ｓstation ・MIC見学会」への参加につきましては総会案内の「往復はがき」にてＭＴＢより別途ご案内申し上げますので、日程だけ抑えておいてください！

◆「耕至天」極致の場所

・・・・・・（2015-03）―山本　拓弘（馬骨）さんから投稿頂きました―

難しげなタイトルとなりました。文法的にはやや危なげなことばの使い方になるかもしれません。「耕至天」というのは、耕して天に至るという意味のことばであり、「極致」というのは、最高の境地というような意味ですから、事象と心の働きの関係の表現には少し無理があるような気がします。しかし、そのような理屈は措くとして、自分的にはこの地を訪れた時に、度肝を抜かれるほどにその景観に驚き、とっさに思い浮かんだことばが「極致」というものだったのです。「耕して天に至るはここに極まれり」という、絶句ともいうべきことばでした。

「耕至天」ということばが好きなのです。「耕して天に至る」。なんという力のこもった、農耕民族の精神と実績を示す美しいことばではありませんか。自分の祖先がどんな暮らしをしていたのかは、わずかに

祖父母の時代のことまでくらいしか判りませんが、ずっと遡れば、狩りの時代を終えた後は農耕に力を注ぎ、暮らしの生業（なりわい）を得ていたに違いありません。大地を耕し、大自然との共生の中に稔りを得、それを命の糧として、子々孫々を今日まで養ってきたというのが、この日本国に住みついた大和人を中心とする農耕民族の姿ではないかと自分は思っています。

「耕す」という作業は、辛いものですが、その汗掻く苦労の中には作物との共生の楽しみがあり、その報恩としての稔りが待っています。リタイア後１０年以上が経った今でも、市の貸し出す小さな菜園で、この一連の農耕民族の原点ともいうべき時間を大事にしています。守谷市には山はなく、丘さえもわずかで、段々畑などは皆無で、平らな耕地と沼地とに恵まれた豊かな土地が広がっています。しかし、今の時代、農を業とする人たちは、土地への愛着を忘れつつあり、ご先祖さまからの恵みを蔑（ないがし）ろにして、一時の別種の豊かさに溺れようとしているかの印象を拭いきれません。

２０１４年の秋の旅では、久しぶりに四国の一部を掠（かす）めて、宇和島辺り迄を訪ねました。その主な目的は、重伝建（＝国指定文化財の「重要伝統的建造物群指定地区」）と、同じく重文景（＝国指定文化財の「重要文化的景観」）を訪ねることにありました。これらの地区を訪ねると、日本の昔（といってもせいぜい江戸時代の半ば過ぎくらい迄ですが）が残っており、建物や町並みなどを通して、その時代の人々の暮らしを思い浮かべることが出来るのです。

重伝建は、平成２６年１２月現在で、全国で８９の市町村に１０９カ所が指定されています。又重文景は、全国に４４件が指定されていますが、いずれの地区もその存在の大半は、東日本よりも西日本が中心となっています。これは、日本の文化というものが、西から東へと流れ移って来たという歴史を象徴しているのかもしれません。

関東に生まれ育った者の多くは、日本の文化の中心は東京にあるなどとの思い込みが多くて、その痕跡が今に残らないのは戦災の所為だなどと、やや見当違いの考えを抱きがちなのですが、旅をしながら現地の歴史の記憶を探り巡っていると、その誤りが如何に大きくて惨めなものであるかがよく判るのです。

前置きが長くなりましたが、２０１４年の秋の旅で、訪ねた中で最も印象に残ったのが、重文景の「遊子水荷浦（ゆすみずがうら）の段畑（だんばた）」という所でした。

これは段畑を横から見た眺めである。等高線を引くように、幅の狭い畝が幾重にも積み上げられて、天に登っているかのようだった。

宇和島市の中心部から凡そ１５ｋｍほど南西の海側への道を辿ると、三浦半島と呼ばれる宇和島湾を形成する小さな半島を進むことになります。その半島の真ん中辺りにあるのが、その昔遊子村と呼ばれた地区なのですが、この村の中に水が浦と呼ばれる所があり、その近くに段畑があるのです。この村は漁業と農業で生業を立てて来たようですが、その内容は時代の変遷と共に変わって来ているようで、現在の海の産業は真珠やハマチなどの養殖が中心となっているようです。又、段畑は甘藷などの栽培が中心だったようですが、現在は柑橘類の栽培が中心

となっているようで、畑の作付けも変わって来ているようです。
さて、その段畑ですが、現地では段々畑とは呼ばず、「段畑（だんばた）」と呼んでいるようです。これは、まさにその通りの実感のあることばだと思いました。段々畑では、迫力がないのです。「ダン！バタ！」と、強いアクセントで発音してみて、実感の湧く畑なのでした。

石垣は、大型の石を用いておらず、小さめの石だけで作られていた。急崖を耕地にするためには、大石を用いることは困難であり、先祖の人たちの知恵が込められていると感じた。

日本各地にたくさんの棚田や段々畑が点在していますが、その幾つかを訪ねる機会がありました。例えば関東では千葉県鴨川市の大山千枚田、能登は輪島の白米（しろよね）千枚田などが有名ですが、全国的に見ると、棚田は九州や四国の島嶼（とうしょ）部や沿岸に多いように思います。それらの棚田や段々畑の中でも、この遊子水荷浦の段畑は、段違いの驚きを覚えさせてくれました。

棚田や段々畑というのは、下から見あげるのと上から見下ろすとの二つの基本視点がありますが、棚田の本当の価値を味わうためには、この両方を体験する必要があります。ところが、一般的には現代人は歩くのを怠けて、どちらか一方の視点でしか見ていないことが多いようです。何しろ見上げればかなりの高さになり、見下ろせばこれ又はるかに下方となる地形なのですから、上下を往復するというのは無理と考えるのは当然かもしれません。

私自身も往復を省略して、多くの場合は上から見下ろすことで済ませることが多いのですが、この遊子水荷浦の段畑を訪ねた時は、省略は出来ないと思ったのです。駐車場は段畑の下方の海に近い広場にあり、見上げただけでは、恐ろしいほどの石垣が天空に向かって積まれているだけの空間なのです。それが畑であることを確認するためには、上部まで歩いて行かなければ決して味わえないのでした。高さは１００m近くあり、老人には辛い往復となりますが、その分の感動は格別なものに違いないと思いながらの往復でした。

遊子水荷浦の段畑の石垣。これは下から見上げた景観で、高さが１００mに届くほどの急崖に石積みの畑が幾層にもつくられている。まさに天まで届けというかの如し、である

この段畑は、等高線に沿って砕かれた

石が積み上げられており、その畑の幅は狭い所で１mほど、広い所でも１０mにも満たないほどの、細長い耕地の連なりなのでした。水の関係から田んぼを造るのは不可能のため、畑としたのでしょうが、それにしても山の急斜面を幾重にも取り巻く細長い畑の景観は、驚きと共に、この地に住む人たちの、大自然との格闘の歴史の凄まじさを想わずにはいられないほどの迫力でした。

上部に向かう細い道をゆっくり登って行くと、中腹辺りに先祖代々の名を刻んだ墓標の並ぶ墓地がありました。宇和島湾を見下ろす絶景を俯瞰できる場所につくられた墓は、まさにこの地に住んでコツコツと畑をつくり上げてきた、先祖の皆さんが眠り休むにふさわしい場所だなと思いました。更に上方に登って、しっかりと段畑の景観を胸にまいました。晩秋のこの季節は、作付けする物もないようで、畑には黒いマルチビニールで養生された短い畝が無数と思われるほどたくさんつくられていました。何人かの農作業に携わる方たちの姿も見えましたが、そこまで近づくのはとても無理で、いやあ、これは大変な仕事だなと改めてそう思いました。

上部から俯瞰した段畑の様子。上方に小さく見えるのは港で、係留された船が小さく浮かんでいる。

その後は、遊子ヶ浦の景観と段畑の驚きを楽しみながら、ゆっくりと来た道を下って、戻ったのですが、きつい上りのことなどすっかり忘れ果てていたのは、言うまでもありません。

再び、「耕至天」ということばを、噛みしめて好きなのです。それは単に畑を耕すという農事のことだけを意味するのではなく、己自身の心身（しんじん）を耕し、より高い境地に至るという意味も含んでいるように考えています。この遊子水荷浦の段畑は、農耕民族の本能が形成した一つの芸術作品のように思いました。この地に住み、この見事な芸術作品をつくり上げた人たちに、心から賞讃の思いを抱くと共に、自分自身の未熟への戒めを思ったのでした。

〔愛媛県宇和島市郊外の天に連なる段畑にて〕　　(2014 年 12 月記)

◆　会員の趣味のコーナー

「和光会会報№.２６」から和光会総会に作品を展示された方の出展作品や出展以外の作品等会員の皆様の趣味を紹介するコーナーを設け、第９回和光会総会の展示作品をご紹介いたしました。

会報№.３９より第１２回和光会総会の展示作品をご紹介いたしておりますが、今回も引き続き３名の方の作品をご紹介いたします。

今回もこれらを始めた時期（年数）・動機、作品を制作しての喜び（感動）、苦労したこと、「他に取り組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

◆　油絵・書道

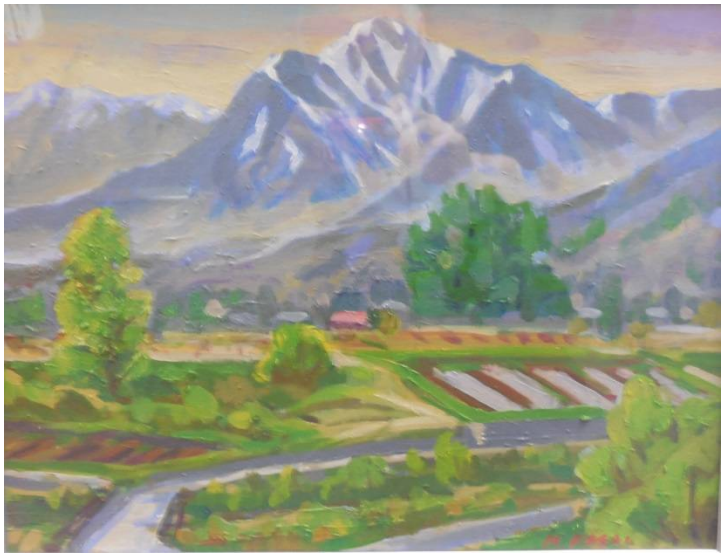
・・・・・・（2014-06）―笠井　宗男さんから投稿頂きました―

油絵（２点）

①「磯風景」（Ｆ３０号）

十数年前に房総半島太海の二衛門島に二度写生に行ったことがあり、４～５枚描いたことがあるが、それらを参考にして他の場所のイメージもいれて描いた。今年の３月のグループ展に出したもので、近景の入り江の波のない水面の静、遠景の波、空の変化等の動を意識して作品にした。

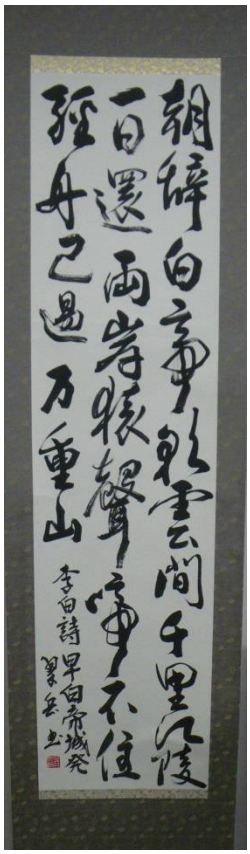
②「新緑の甲斐路」（Ｆ８号）



一昨年（２０１２年）同期の４０会（しまる会）で安曇野まで車で行ってきたが、途中、中央高速道より眺める甲斐駒ケ岳に魅了され、昨年の５月の連休明けに写生に行き描いたものです。

書道　条幅

「早発白帝城」　李白の七言絶句　　（唐詩選）



早発白帝城（つとニ）

朝辭（ニス）白帝彩雲（ノ）間

千里（ノ）江陵一日（ニシテ）還（ル）

兩岸（ノ）猿聲啼（イテ）不（ルニ）住（とどマラレ）

輕舟已（すでニ）過（グ）萬重（ノ）山

李白

３月に他の漢詩を書こうと思っていたが、４月の末頃に腰を痛め、治ると思っていたが、書けなくなり、昔書いたものを掛け軸にしました。
行書と草書を混ぜて書いたものです。

◆水彩画・日光彫

・・・・・・（2014-06）―沼部　光雄さんから投稿頂きました―

水彩画

「シクラメン」（Ｆ６号）

ＢＷを退職して平成１７年に栃木県シルバー大学校南校に入学。クラブ活動で、水彩画部と日光彫（他に囲碁部、ゴルフ部にも入部）に入部する。
校長は県知事、入学式の知事の講話で覚えているのは「自分がしたいことをすればいい」と夜学（日大建築）に通った時の日大総長の話でした。松尾元教育センター所長と共通点を思い出しながら通学いたしました。
通学中は、週１枚を目標に年間５０枚の作成をいたしましたが、卒業後は、作成枚数は激減しております。
仲間と常設の展示場（ボランテア）２か所、仲間との展示会も年２回あり、その展示のために新しい作品を制作しております。
この「シクラメン」は、冬は室内での活動となるため玄関にあるものを描きました。

日光彫

鏡　絵柄ばら（３３ｘ３３cm）

日光彫もシルバー大学校に入学して初めて取り組みました。
話はそれますが、私の母校の高校には、天皇・皇后両陛下が行幸されており、美智子妃殿下が投げられた輪投げで私たちも授業を受けました。
栃木市には明治天皇・大正天皇も行幸され、私の母校の高校に滞在されました。
一般公開はされませんが、玉座、寝室、風呂などが、今も残っております。

◆水彩画　3点

・・・・・・（2014-06）―東山　孝幸さんから投稿頂きました―

①「アラビアン　アートの館」　（２０号）

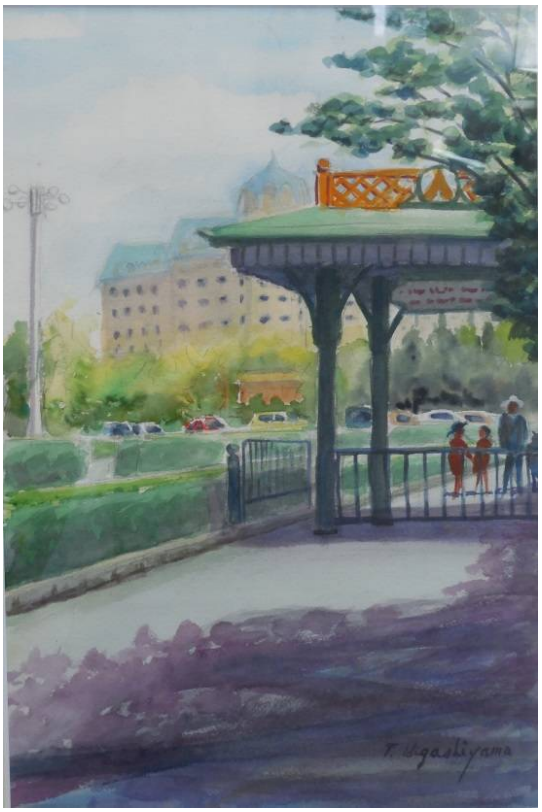
房総　鴨川の太海側の小高い丘の上に「一戦場公園」がある。この公園は　頼朝がこの地の一戦で勝利して以降勝ちつづけ鎌倉幕府に至ることを記念して作られた公園で　この公園の入口に　アラビアン　アートの館がある。エジプトと深いかかわりのある　画家のアトリエ　ホテル　レストランで　アラブ風の白い石ずくりの雰囲気は絵心を掻き立てる。
特に裏側に回ると　建物の影が明・暗を醸し出し格好のスケッチポイントで１０号でスケッチしたものを２０号にした作品。

②「葛西臨海公園の片隅」（２０号）

③「葛西臨海公園の片隅」（１０号）

３月のその日臨海公園の海岸では　ちょうど逆光の中土砂の撤去作業が行われていた。目下私の最大の課題である　明・暗（光と影）遠・近の作品つくりには　格好のポイントで早速１０号で仕上げた。このような光景（景色）に出会うことはめったになく充実した感動的な半日だった。
この時の強烈な印象をもとめて翌週出掛けてみたらすでに作業は完了し船や重機は跡形もなく静かな入江でしかなかった。帰宅後　強烈な印象を２０号で創作してみたこのような光景（景色）に出会うことが　大きな喜びである。

③「駐車場」（１０号）



久しぶりに舞浜で降りてみた。駐車場を進んでいくと、音楽と共に外国気分、日陰のイスに座って、早速スケッチ。
目下、明暗を課題としている私には格好のスケッチポイントとなった。

○ カレンダーの追加・手帳の頒布について

カレンダーは毎年年末に会員宛１部送付しておりますが、カレンダーの追加・手帳の頒布をして欲しいとのご要望がありましたので、２０１６年分から有償申し込みを受け付けることに致します。
ご希望される方には下記方法にて頒布いたしますので同封の振込用紙にて必要部数をご記入の上来る平成２７年６月２６日（金）期限厳守にて下記口座にお振込願います。期限に遅れると MELTEC 宛追加発注できませんので期限厳守でお願いいたします。年末にご送付いたします。

振込先：郵便局
口座番号：００１００－７
口座記号：６５０８９６
加入者名：和光会

① カレンダー　１部　￥８００
② 手帳　　１部　￥２５０

◆ MELTEC 情報

○ ＭＥＬＴＥＣ役員人事－２０１５年４月１日付で次のとおり役員人事が行われました－

	新	旧	氏　名
就任	常務取締役 本社　昇降機保守事業本部長	取締役　本社　昇降機事業本部長	杉田　和彦
新任	取締役（非常勤）	（三菱電機株式会社）	中条　　孝
新任	取締役　本社　人事部長	役員技監　本社　人材開発センター長	佐々木　雅隆
新任	取締役　本社　経理部長	役員理事　本社　経理部長	北山　友一
新任	取締役　東京支社長	役員理事　東京支社　副支社長 （兼）業務統括部長	大塚　眞史
新任	取締役　中部支社長	役員理事　東北支社長	神尾　健二
就任	取締役顧問（経営業務管理責任者）	常務取締役　本社　人事部長 （経営業務管理責任者）	河村　賢造
新任	監査役（非常勤）	（三菱電機株式会社）	尋木　保行
就任	顧問	取締役副社長	倉科　　清
就任	顧問	取締役　本社　情報システム統括部長	小田島　孝好
退任		取締役（非常勤）	荒木　義臣
退任	＜トーコービルシステム株式会社 取締役社長に就任予定＞	取締役　中部支社長	小泉　俊一
退任	＜株式会社菱サ・ビルウェア 取締役社長に就任予定＞	取締役 本社　ファシリティ事業本部長	木瀬　吉昭
退任		監査役（非常勤）	諏訪　裕治

◆ 事務局より

・ 和光会会報No.３４より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅についてご投稿いただいておりますが、今回７回目のご投稿をいただきました。
なお、山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記プログに載っておりますので是非ご覧ください。
http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855
「山本馬骨」で検索しても可能です。

・ 「会員趣味のコーナー」では第１２回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました笠井宗男さんの油絵・書道（条幅）、沼部光雄さんの水彩画・日光彫、それに東山孝幸さんの水彩画と３名の方の作品をご紹介させて頂きました。

・ ２０１５年度会費納入対象の方は２００３年（創立時）、２００６年、２００９年および２０１２年に入会された方々になります。
対象者宛に「１１９４」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしますので、会費「4,000 円（２年分）」を次の口座宛に振り込み賜りたくよろしくお願い申し上げます。

振 込 先：郵便局
口座番号：００１００－７
口座記号：６５０８９６
加入者名：和光会

・ E－MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、未だ不達がありますので、メールアドレスの変更時は速やかにご連絡をお願いいたします。
また、添付資料がないとの連絡を頂くこともありますので、そのような場合は事務局あてご連絡ください。
携帯電話のメールでは添付資料送付は無理ですのでその旨ご連絡ください。今後は印刷物をご送付致します。

・ 「和光会会報」・「１１９４」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくることがありますので、転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡をお願いいたします。

・ パソコンのある方は、会報や総会写真を下記和光会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Kaigan/5992/

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願いいたします。

2015-3-29　和光会事務局　寺門　三男
029-872-4122 mitsuotera@jcom.home.ne.jp